

人は人を浴びて人になる

～ふるさと形原を愛する形中生～



形原の魅力
いっぱい

第76回卒業式



JRC委員会の1.2年生が
育てた早咲き桜



3月7日(火)、うらかな春の日に、第76回卒業生157名が本校を巣立っていきました。卒業生は、マスクを外して式に参加することができたので、友の顔をしっかりと目に焼きつけ、旅立つことができたと思います。

壇上に飾られた、後輩たちが育てた「早咲き桜」に見守られながら、1人1人が卒業証書を受け取っていきました。担任の呼ぶ声に「はい」と笑顔で応える子、涙をこらえて応える子、恥ずかしそうに答える子、その心の中では、3年間のさまざまな思い出が蘇っていたことでしょう。コロナ禍での中学校生活で、できなくなったことを数えるのではなく、できることを常に模索し、新しいことに挑戦し続けた卒業生でした。人として大きく成長してくれたと感じています。



2年生が感謝の気持ちを込めてつくった「ロープコサージュ」は、梅結びで編まれ、簡単にほどけることのない「固い絆」を表しています。そのコサージュを胸に、自分の意見を大切にし、自分を信じて前に進んでくれることを期待します。そして、いつの日か愛するふるさと形原のために貢献できる人になってくれるとうれしいです。



2年生が卒業生に贈った
形原のロープコサージュ

春日桜会さん、稲葉製綱さん、蒲郡くらふとフェア実行委員さん、市役所産業政策課さん等、多くの地元のみなさんの協力をいただき、形原の魅力いっぱいの卒業式をつくることができました。感謝いたします。

校長式辞より

みなさんに身につけてほしいと願ったことは『自分の頭で考え、自分の意見をもつこと』です。これは、みなさんが変化の激しい情報化社会で生きていくのになくならない力です。本校は今年、校則を見直しました。それは、みなさんに自分の頭で考える機会をつくるためです。今年の成人の日に作家で演出家の鴻上尚史さんが、こんなコラムを若者へ贈っています。私はこの話を読んで本当にその通りだと思いました。みなさんは、どう思いますか？

「大人になる」とはどういうことでしょうか？僕は、親や先生や友達の意見に従うのではなく、「あなた自身の頭で考えること」だと思っています。自分の人生を自分で決めるということです。けれど、これはとても難しいことです。だって日本の若者たちはずっと「自分の頭で考えるな」という訓練を受けてきたからです。日本の多くの中学校では「中学生らしい」服装や髪型にしようと言われていました。けれど「中学生」というイメージは様々です。それを「中学生らしい」というひとことでまとめるということは「考えるな」ということです。黙って校則に従え、疑問を持つなと教えられて来たのに、成人する時にいきなり「自分の頭で考える人になってください」と言われるのです。ずっと「1人で泳ぐな！」と言われてきたのに、成人したらいきなり「1人で泳げ！」と言われるようなものです。それは無理です。僕は、日本の若者に深く同情します。

春日桜会 春をとどけ隊



今年も春日桜会さんが、卒業式にあわせて早咲き桜を届けてくださいました。式場は満開の桜に包まれました。

春日桜会長市川様より、早咲き桜200本が藤井生徒会長へ手渡されました。

形原中学校 卒業証書授与式



ソメイヨシノの早咲き桜を育て、卒業式に3年生に贈った1・2年生のJRC委員会のメンバー。

形原の伝統芸能 ちゃらぼこ体験授業

3月13日(月)、今年も拾石ちゃらぼこ保存会の方をお招きし、1年生を対象に「ちゃらぼこ」の授業(音楽)を行いました。

NHK 大河ドラマで話題沸騰中の家康が、人質として駿府に送られる時に、蒲郡の犬飼港(現市民会館周辺)で耳にした太鼓の音が、「ちゃらぼこ」となっているようだと言ったことから、名付けられたそうです。

形原には「ちゃらぼこ」という伝統芸能があります。しかし、たたく機会が少なくなり、伝承していくことが難しくなっています。

今回の授業で「ちゃらぼこ」に興味をもったり、やってみたいと思ってくれたらうれしいです。形原の伝統芸能「ちゃらぼこ」をこれからも継承していきたいですね。



ちゃらぼこ模範演奏

段ボール箱で練習後、太鼓を叩きました。